

練馬区立光が丘四季の香小学校

学校だより



教育目標：自ら考える子・思いやりのある子・たくましい子

HP <http://www.shikinokaori-e.nerima-kyo.ed.jp/>

<10月号>

令和元年10月3日

TEL 03-3977-2711

校長 高野 博文

第104号

秋の夜長は読書

副校長 川村 豊

秋がやってきました。秋は何をするにもよい季節といわれています。「スポーツの秋」「食欲の秋」「芸術の秋」今年度は「音楽会」もあり、子供たちも実り多く健やかに成長するよう、学習や行事にしっかり取り組んでいます。

さて、秋分の日を過ぎ、秋が深まってくると夜の長さが長くなってきます。唱歌「虫の声」では「秋の夜長を鳴き通す」と歌われており、静かな夜に虫の声が心地よく響く様子が浮かんできます。（長い間鳴き通す虫たちは大変かもしれません。）そんな夜長にはぜひ読書をお勧めしたいものです。

現在、多くの映像が子供たちの周りにあふれています。もちろん人の感性に訴えかけ、感動する心を引き出すものも多くあります。私自身も映画やテレビで感動することはあり、とても満ち足りた気持ちになります。

しかし、本を中心に活字のもつ有効性について、もう一度考え、多くの本好きの子供たちを育てたいと考えています。

世界の著名人たちの多くが「読書の力」に注目しています。例えば多忙にもかかわらずビル・ゲイツは年間50冊の本を読み、マーク・ザッカーバーグは2週間に1冊本を読むと宣言しています。

アメリカで最も活躍したシンガーであった「マイケルジャクソン」も大変な読書家であったようです。読書についてこう述べています。

「僕は読書が大好きだ。もっと多くの人に本を読むようアドバイスしたい。本の中には、まったく新しい世界が広がっているんだよ。旅行に行く余裕がなくても、本を読めば心の中で旅することができる。本の世界では、何でも見たいものをみて、どこでも行きたいところに行ける。」

まさに創造力や思考力の広さや深さを表している言葉です。あの素晴らしい多くの楽曲の中には読書から得たものが多く入っているのかもしれない。

また、ドイツの哲学者である「ショーペンハウアー」も読書について自分の考えを述べています。

「熟慮を重ねることによってのみ、読まれたものは、真に読者のものになる。食べ物は食べることによってではなく、消化によって我々を養うのである。」

これには読書による有効性の一つ「語彙力を身につけさせる」ということも含まれています。

よく、「語彙力」というのは、「どれだけ多く言葉を知っているか」と理解されることがほとんどだと思えます。ただ、ここで考えたいのは「単純に多くの言葉を暗記しているかどうか」ではないということです。

語彙力とは「多くの単語の意味とその使い方を理解している」ということです。それが身につくのが読書です。単語の意味だけ理解しているのでは読み進めていくことは困難です。

また、活字は映像などに比べて圧倒的に情報量が少ないものです。そのため、創造力や思考力を働かせながら読み進めていくことが必要になります。まさにマイケルジャクソンの「本を読めば心の中で旅することができる。」という素晴らしさがあります。そして子供たちの発想力や集中力等も伸ばし、思慮深い人間に成長していくと考えています。

ご家庭でも子供たちに読書を進めてみるとともに保護者の皆様も一冊いかがでしょうか。